

2021

2.19 fri



2.25 thu

Kasama
College of
Ceramic Art
Graduation
Exhibition
2021

卒展 2021
Instagram



@kcca_sotsuten

卒業制作展

2021

茨城県立笠間陶芸大学校

《土に映す》

卒業制作展2021によせて

学校というものほどこでも、少しずつ重なりながらも毎年学生がどんどん入れ代わっていきます。「当たり前前の…」と言われそうですが、卒展はその、時の流れをつくづく思い知る瞬間の一つです。

しかし激しく移り変わりながらも毎年作品のレベルが上がって行くことに感心します。移ろいの中で変わらない何かが伝わっていているのです。

その根底に据わっているのが、二人の教授を中心に作られたカリキュラムだと思います。世界最高峰のカリキュラムです。何故なら、陶芸を、出来上がったものに対してどう思うかという「鑑賞の論理」ではなく、素材の限定を出発点として、陶芸が出来上がるまでの「陶芸独特のプロセス」に沿って自分の形を作り出すという「創造の論理」で捉える。そういう視点で作られたものだからです。

美大の4年間を陶芸に特化して凝縮した2年間、息つく間もない課題の連続に耐えてここに至った陶芸学科学生。一定の経験を基にして考え抜かれた課題をものにした研究科学生。その成果を篤とご覧ください。そして励ましてあげてください。

茨城県立笠間陶芸大学校
学校長 金子賢治

陶芸学科【2年制】

土の特性を自らの感覚で知るところから始まります。手捻りやタタラ、ロクロ、石膏型による成型技術や絵付けによる加飾技術などを幅広く学びます。加えて、釉薬の調合や焼成技術、工芸史や陶芸における造形理論の理解を深め、2年間の集大成としての卒業制作に取り組みます。

Kakuda Tomotaka	01 角田 智高
Kawasumi Tomokazu	02 川澄 智一
Sasaki Remi	03 佐々木 玲美
Seki Yuta	04 関 雄太
Tazawa Masayoshi	05 田澤 雅義
Chiba Kozue	06 千葉 こずえ
Nishiyama Sumire	07 西山 すみれ
Hirai Yuta	08 平井 祐多
Machida Miho	09 町田 美穂

interview 01



角田 智高

Kakuda Tomotaka

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

Yakimono と学生最高と思っている最低な学生でゴメンナサイという気持ち。です。

<なぜ、今、Yakimono なのかというステートメントみたいなものは下記もしくは展示作品にてご確認くださいませ。>



<https://www.purapiliporura.com/yakimono>

interview 02



川澄 智一

Kawasumi Tomokazu

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

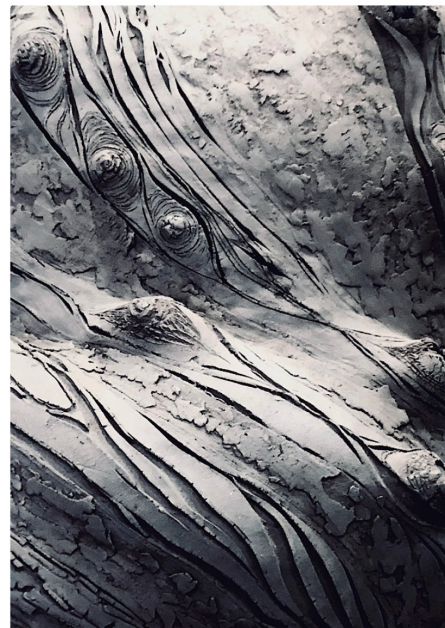
私は自然の中に存在するものをモチーフに作品を作っています。

もともと陶土という素材も、かつては自然の一部であり、樹木や動物たちと共にあった存在です。私はその自然の一部であった土を用いて自分の手で新たに「自然」を作り出すことで「還元させる循環の輪」というテーマを表現したいと常に考えています。

そして、土という素材そのものの根源を尊重しながら作り続けることが、私にとって今後も最も大切にしたいことです。



鍾と丑 / 手しごと



『Tree Bump』 / 手捻り・嘯裂



『Ground-Totem』 / 手捻り・嘯裂

interview 03



佐々木 玲美

Sasaki Remi

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

物事を観察しながら自分のなかで見つけたアウトラインを、立体として立ち上げることを意識して制作しています。

張りや柔らかさをアウトラインで捉え、どの面から見てもラインがつながるように、モチーフとするものをよく見て手を動かすことを心掛けています。

interview 04



関 雄太

Seki Yuta

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

今は直感を頼りに " やってみたい " を作品にしています。難しく考えすぎて、モノを作っても無駄になるだけだと、作陶が止まってしまったこともありました。作ったモノに無駄はない、無駄にならないように次へ繋ぐ、そう考えられるようになったのもつい最近の事です。この先も自分を偽らず好きな事が出来たら良いと思います。



pop pot / ロクロ



コーヒードリップポット / 鑄込み

interview 05



田澤 雅義

Tazawa Masayoshi

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

制作で大切にしていることは、土で形を作っている中でその時々感じた印象を掬い上げよく観察することです。

陶芸は成形に限らず本当に多くの工程を取り入れる事ができ、その一つ一つが作品をより強いものにします。

長い過程の中で作品がより魅力的になる方法を模索し続ける事は作品のためにもそれを作る自分のためにも大切だと思います。



岩礁 / 手びねり

interview 06



千葉 こずえ

Chiba Kozue

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

日々の生活の中でふいに現れる美しいと感じる光景や感情を、作るもの写し込みたいと思っています。

視覚という入口を通して自分の中に浮かび上がる感動を、土や釉薬という素材を用いて「触ることのできる美しさや愉しさ」として具現化し、それが誰かの日常のひとつのピースになることを想像しながら制作しています。そのためにフォルムやサイズ感、質感や触り心地にこだわりながら作り続けていきたいです。



受けとめるうつわ / 手捻り

interview 07



西山 すみれ

Nishiyama Sumire

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

やわらかくしなやかな印象を与える作品を目指しています。そして、やわらかさの中に緊張感や力強さを表現できるよう試行錯誤しています。

オブジェであつてもうつわであつても、一人ひとりの毎日が明るくなるような、生活に寄り添う作品を制作し続けたいです。



安らうポット／ロクロ

interview 08



平井 祐多

Hirai Yuta

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

自身の好きなものや良いと思うものを形に出来るよう努めています。

技術面では、立ち上がった輪の形状の作品を継続して制作し、化粧や三島手を用いた加飾も行っているため、制作物の乾燥状態のコントロールに気を使っています。



円相 / 手びねり、化粧掛け(刷毛目)



町田 美穂

Machida Miho

陶芸学科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

私は磁器の透光性と蛍手を活かしながら「自分が日常生活で使ってみたいと思えるもの」を作りたいと思っています。

シンプル過ぎると日常に溶けきってしまい、個性的過ぎるとかえって日常使いしづらくなる…。そのバランスに気をつけながらシンプルだけど遊び心が見え隠れするような作品を目指して作陶しています。

研究科【1年制】

各自が研究テーマを設定し、テーマに沿ったより高度な知識と技術を修得するための学科です。

1年間の研究過程で、各自の持つ制作テーマのもと、制作や研究を行い、卒業後に国内外で活躍するための制作技術と創造力を養います。



ボンボニエール/ロクロ

Kanai Haruki 10 金井 春樹

Masubuchi Yusa 11 増淵 悠颯

Yanagi Seita 12 柳 星太

Shimoji Hitomi 13 下地 ひとみ

interview 10



Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

土ならではの表現と、膨大な時間の中で存在していた土の深さを表現したいです。

金井 春樹

Kanai Haruki

研究科



精神と峯 - 蕪絶 - / 手びねり



Spirit of Stone/ 手びねり

interview 11



Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

大切にしているのは「理解をするコト」です。相手に近づく為には相手のことを調べることも大事だと思いますが、一方的すぎるとバランスが崩れてしまいます。なので、時間をかけて理解することが大切だと思います。

増渕 悠颯

Masubuchi Yusa

研究科



"抜け出す" というコト / 手びねり



"馳せる" というコト / 手びねり

interview 12



柳 星太

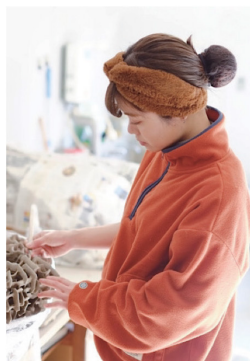
Yanagi Seita

研究科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

「何かすごいことをしよう」「何かを伝えたい、表現したい」と考えすぎて、それが足枷になって、見落として、鈍くなってしまわぬように。土と火と僕が、わちゃわちゃーつとなって、結果として窯の中に残った、新たに生まれた存在がある。それだけで成立するような関係を築いていきたい。

interview 13



下地 ひとみ

Shimoji Hitomi

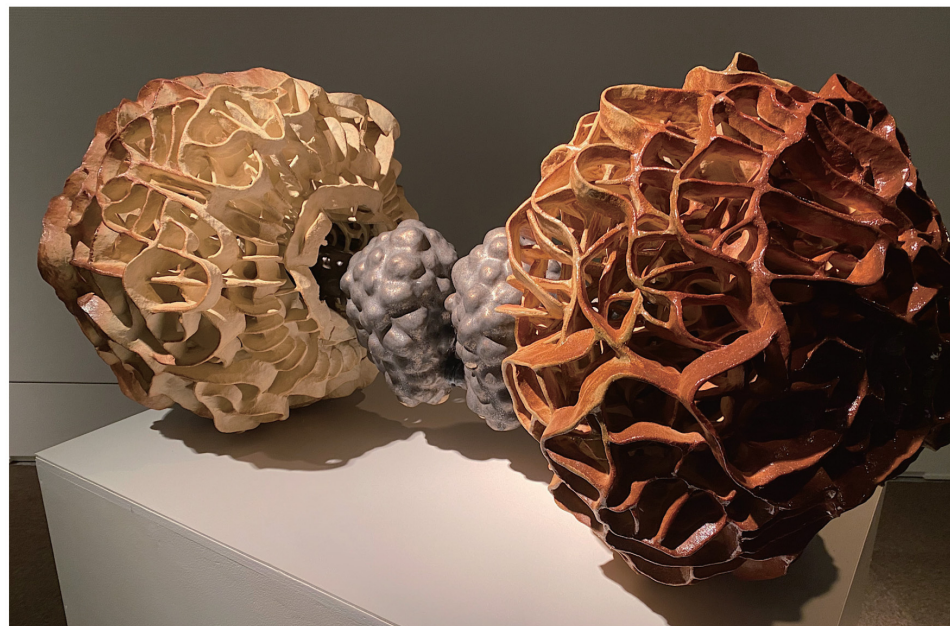
研究科

Q. 作品を作るうえで大切にしていることは？

土は魅力にあふれています。土には様々な表情があり、私がモノを作る上で欠かせない素材です。内側から垣間見える表面や表層部分の重力を感じさせる釉薬の表現、土の持つ柔軟さと複雑な動きのある造形を目指し、制作しています。



i 「レニ」 / 手びねり



暮れなずむ / 手びねり



佐藤 雅之 特命教授

Sato Masayuki

- 1968 新潟県生まれ
- 1993 武蔵野美術大学短期大学部
工芸デザイン専攻 陶磁コース卒業
- 1997 多治見市陶磁器意匠研究所 修了
- 1998 第5回国際陶磁器展美濃'98/陶芸部門 審査員特別賞
- 2004 『土から陶へ』の造形展/目黒陶芸館
/京都文化博物館/NIKI GALLERY 冊
- 2005 第1回 菊池ビエンナーレ/優秀賞
- 2008 (東海現代陶芸の今)/愛知県陶磁資料館
- 2014 現代・陶芸現象展/茨城県陶芸美術館



五味 謙二 特命教授

Gomi Kenji

- 1978 長野県茅野市生まれ
- 2001 早稲田大学人間科学部卒業
- 2013 第5回 菊池ビエンナーレ/優秀賞
- 2014 第7回現代茶陶展/TOKI織部大賞
第10回国際陶磁器展美濃/陶芸部門グランプリ
- 2019 第25回日本陶芸展/大賞・桂宮賜杯
- 2021 第31回タカシマヤ美術賞

現在、茨城県立笠間陶芸大学校特命教授
茅野市縄文ふるさと大使



根本 達志 笠間焼伝統工芸士

Nemoto Tatsushi

- 1964 茨城県生まれ
- 1995 茨城県工業技術センター窯業指導所 職員となる
- 1998 茨城県常陸太田市にて独立
- 2010 第57回 日本伝統工芸展 入選
- 2011 第51回東日本伝統工芸展 入選(以後'12'13)
- 2016 第5回 そば猪口アート展 特別賞受賞
タイ・メイファールアン財団 陶芸技術指導
- 2017 上海国際陶芸展 特別賞受賞

ACCESS



JR利用

- 常磐線友部駅北口より「笠間観光周遊バス」(100円)
- 「ギャラリーロード」下車 徒歩2分
- 「工芸の丘・陶芸美術館」下車 徒歩4分
- 水戸線笠間駅より徒歩20分

車利用

- 常磐自動車道友部JCT経由
北関東自動車道友部I.C.より3km 10分
- 東北自動車道栃木都賀JCT経由
北関東自動車道笠間西I.C.より10km 15分

◎お問い合わせ

茨城県立笠間陶芸大学校
〒309-1611 茨城県笠間市笠間 2346-3
Tel. 0296-72-0316
www.itic.pref.ibaraki.jp/tougeidai/

